

華語文奨学金奨学生による留学レポートと心得

武笠 佳那子

私は既に社会人を経験してから留学を決意しました。

元々、台湾へ留学をしたいと考えておりましたが経済的な理由もあり社会人になってから、より現実的に計画を始めました。

学生時代から少し時間が経ってしまいましたが、今まで学んできた書道を本場で学びたい・中国語のスキルを身につけたい・自分にとっての大きい目標を作りそれを達成したいなどの夢を持ち台湾へ向かいました。

台湾での語学留学は大学の中にある語学センターに行く事が主流となっております。

私は士林にある東呉大学の語学センターへ行き1年間中国語を学びました。

私の学校では、週に5日間1日3時間の中国語クラスがありレベルに合わせて様々な国のクラスメイトと共に学びます。授業中の言語は基本的に中国語でした。

時々イベントが催され台湾人の大学生と交流出来る機会も多くあります。

東呉大学は日本語学科が有名で日本人と言語交換をしたいという学生が多く、現地の友達を作りたいという方にとってとても良い環境だと思います。

私も授業以外の時間は、台湾人の友達の家に行き家族の皆とご飯を食べて現地の文化に直接触れて学んだり、目的の1つでもある書道というコンテンツを通して書道教室や展覧会で人脈を広げていきました。

台湾に来たばかりでまだ中国語が上手く話せない頃、展覧会で勇気を出して声を掛けた書道の先生は、私を家族の様に扱って下さり先生に紹介していただいた書道の大会に参加し入賞する事が出来ました。そして、語学センターの主任に、大学内で私の個展を開かないかと提案いただき、帰国前に開催した個展には多くの方が参観しにいらっしゃいました。

今も先生と定期的に連絡を取っており、次に台湾か日本でお会いする日をとても楽しみにしています。

1年という期間はとても早く毎日予定を入れていた私でも足りないと思う位、あっという間に過ぎました。これから留学へ行く方は是非、行く前にしっかりと自分のしたい事は何か？をまとめ実現したい目標を掲げてから桃園行きの飛行機に乗り、毎日を台湾でしか出来ない素敵な経験と思い出でいっぱいにしていただきたいです。

現在帰国してから、早速中国語を活かせる場面に多く遭遇し改めて自分の1年間の実りの多さを実感しております。

奨学金というご支援のもと私の留学は成功し、心より感謝してしております。

また、コロナ禍という不測の事態の中真摯に対応していただきました教育部を始め関係者の皆様にお礼を申し上げます。